

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 4年 3月 22日

事業所名:発達療育 レンテ市川第二

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	2	・面談が重複した際に、保護者との面談室のスペースが無いという問題がある。おもちゃの部屋を使っているが換気ができないので、あまり芳しくない。
	2	職員の配置数は適切であるか	9	0	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1	・掲示板の作成により、情報伝達に関して配慮されるようになっている。環境面では、窓に格子をつける、非常口のカギにカバーをつけるなどの安全面での配慮が出来ている。 ・事務所と待合スペースの仕切りがない(お子様が入ってこれる)ので、対策を検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9	0	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7	2	・管理者のリードによって、問題提起されていることが多い。 ・改善は全職員で対応している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9	0	・ご利用者様向け評価だけでなく、フィードバックや月1スーパービジョンの面談の中で保護者様からのヒアリングや意向を確認しながら支援を行っていく努力をしている。 ・環境設定の要望には応えきれていない(玄関の施錠や待合スペース、面談室等)。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8	1	・ホームページにて公表しているものの、周知しきれていない部分もある。 ・毎年の評価が形骸化しないように心掛けたい。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	5	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	1	・昨年度よりも研修やスキル指導は増えている。聞くだけでなく、意見を出し合う、ロールプレイも含めた研修が増えるとより良い。 ・事業所間での研修も行っている。 ・実施頻度を増やせるとより資質向上が出来る。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	9	0	・複数のアセスメントツールを使用して、支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8	1	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8	0	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8	1	・お子様の成長具合と当初の支援計画の見立てにズレが生じた場合は、支援計画のみに捉われず、都度お子様の成長に合わせた計画の変更を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	2	・ケースごとに担当で集まり、ミーティングを行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	0	・スーパービジョンを定期的に行い、都度プログラムの更新を行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	9	0	・集団活動は今後のニーズに合わせて、幅広く提供できるとよい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	2	・毎回のセラピーの様子を記載した報告書や課題の達成状況を共有しているので、担当者は開始前に把握することが出来ている。 ・不明点や口頭伝達が必要な際などは、都度声を掛け合って話す場面を設けている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	2	・気づいた点については、セラピーの様子を記載した報告書で共有が行われている。疑問点や不明点があれば、口頭で確認する場合もある。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	0	・毎セラピーでデータの記録、記述の記録を取り、それを基に支援の検証・改善を行っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	9	0	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7	0	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7	2	・状況に応じて連携を行っている。
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	9	0	・園の先生と情報共有、相互理解を図っている。
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	8	1	・引き継ぎ書による移行支援は毎年実施している。
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	4	
	26	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	2	6	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8	1	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	7	2	
保護者への説明責任等	29	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	0	
	30	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	9	0	
	31	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	0	・スーパービジョンの面談時に実施、緊急度合に合わせてスーパービジョンの面談時以外も可能な限り、話を聞くように努めている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	8	・Webセミナーによって、保護者とのつながりができてきた。「就学について」「身辺自立について」などのテーマを決めて保護者が一人で抱え込まないよう、情報交換会やアイデア交換会ができるとよい。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	0	・コロナ対応時の保護者様からのお申し入れに対して、迅速かつ適切に対応することが出来た。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	1	7	・会報はないので、不定期にはなるがオンデマンドセミナーの案内などは発信している。
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	9	0	
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	2	
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8	1	・コロナ対策の随時見直しも実施している。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	0	
	39	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	9	0	
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9	0	
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5	4	
42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	8	0		

**保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)**

公表：令和 4年 3月 22日

事業所名： 発達療育 レンテ市川第二 保護者等数 (児童数) 21 (22) 回収数 11 割合 52%

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	0	0	0	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	11	0	0	0	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、情報伝達等への配慮が適切になされているか	11	0	0	0	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11	0	0	0	・とてもきれいに整頓されています。 ・広々として良いですし、窓の大きな明るい部屋が多いので、圧迫感(閉所恐怖)がなくてよいと思います。
適切 な支 援の 提 供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	11	0	0	0	・詳細でありがたいです。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	1	0	1	・個人に対しての支援内容が具体的に設定されています。親目線だけでなく専門家の目線から支援すべき事項の詳細説明があり、ここまで丁寧に対応してくれる事業所はあまりないと思います。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11	0	0	0	
	8	活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	11	0	0	0	
保 護 者 へ の 説 明 等	9	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11	0	0	0	
	10	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	11	0	0	0	
	11	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	8	2	0	1	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
保護者への説明等	12	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11	0	0	0	
	13	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11	0	0	0	・毎回のレッスン時のフィードバックだけでなく、月に1回の個別面談があり手厚いと思います。
	14	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	2	6	1	・コロナもあり仕方ないかもですが…。 ・あまり必要性を感じていません。
	15	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	10	0	0	1	・相談や申入れを行った後の対応が丁寧だと思います。
	16	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11	0	0	0	
	17	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	7	2	2	0	・若い気鋭の方がやってらっしゃる法人なので、もう少しICTを取り入れて頂くと良いかもしれません。
	18	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	11	0	0	0	
非常時等の対応	19	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	10	1	0	0	・感染対策に関するお知らせは受領しました。レッスン中、受付不在時にも自由に出入り可能のため、その点は不安です。(他事業所はナンバーキー等で施錠されているので)防犯についての説明は特に受けていないと思います。
	20	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	10	0	0	1	
満足度	21	子どもは通所を楽しみにしているか	11	0	0	0	・いつも楽しそうに通所しているので私も嬉しいです。
	22	事業所の支援に満足しているか	11	0	0	0	・専門的で有難いです。

\*1 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 「児童発達支援計画」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

\*3 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

\*4 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方等を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。